

心電図検査装置 仕様書

都城市郡医師会病院

詳細仕様書

構成：新規設置2台

1. 心電図検査装置に関しては以下の要件を満たすことが望ましい。

1-1	安静時標準12誘導心電図が記録可能であること。
1-2	内部バッテリー搭載時は120分以上の稼動が可能であること。
1-3	液晶ディスプレイはカラー表示であり対角15.6インチ以上、解像度は1,920×1,080ドット以上（フルHD）であること。
1-4	記録紙幅は210mmであること。
1-5	内蔵可能なロール紙に記録可能であること。
1-6	6×2+リズム1ch表示が可能であること。
1-7	最長10分前まで遡って12誘導心電図波形を確認することができ、任意の箇所を指定してその時点の12誘導心電図解析、不整脈解析、リズム計測が同時に実施することが可能であり、12誘導検査に限り最大10か所を指定して同時に解析することが可能であること。
1-8	オートキャプチャ機能を使用することでノイズの少ない波形区間を自動検出し、検出した区間の記録・解析ができること。
1-9	オートフィルタ機能を使用することで規定のノイズレベルに達した場合、自動でフィルタをかけることができること。
1-10	右胸心の被検者に対して、胸部電極の付け替えのみで検査が行える機能を有すること。
1-11	標準12誘導心電図から右胸部誘導（V3R～V5R）、背部誘導（V7～V9）の合成波形を作成し、合成18誘導連続波形を提示する機能を有すること。
1-12	ファイルに保存された標準12誘導心電図データから右胸部誘導（V3R～V5R）、背部誘導（V7～V9）の合成波形を作成することがきること。
1-13	収録した心電図データをMFER-SEAMAT形式でメモリーカードへ保存可能であること。
1-14	内部メモリには1,000件の検査データが保存可能であること。
1-15	無線LANアダプタを内蔵していること。
1-16	WPA2エンタープライズでの通信が可能であること。
1-17	収録した心電図データ及び保存メディアに保存された心電図データを既存の生理検査システムへ送信できること。
1-18	既存の生理検査システムを介してオーダリングシステムとの連携が可能であること。
1-19	オーダー情報をSDカードに登録し、オフラインでのオーダリング運用が可能であること。
1-20	オーダーで検査情報が送られた際に反映される検査設定を心電計で各検査種別ごとに最大8個まで用意しておくことが可能であること。

詳細仕様書

構成：新規設置1台

1. 心電図検査装置に関しては以下の要件を満たすことが望ましい。

1-1	安静時標準12誘導心電図が記録可能であること。
1-2	内部バッテリー搭載時は120分以上の稼動が可能であること。
1-3	液晶ディスプレイはカラー表示であり対角15.6インチ以上、解像度は1,920×1,080ドット以上（フルHD）であること。
1-4	記録紙幅は210mmであること。
1-5	内蔵可能なロール紙に記録可能であること。
1-6	オートフィルタ機能を使用することで規定のノイズレベルに達した場合、自動でフィルタをかけることができること。
1-7	標準12誘導配列とキャブレラ配列の表示が可能であること。
1-8	検査画面上の操作で前回検査時の波形データを表示することが可能であること。
1-9	連続して同一IDで再収録した際に「この被検者の心電図はすでに収録されています」など、被検者取違い防止のためのメッセージ表示機能を有すること。
1-10	電極外れの際、外れている位置を文字または人体のイラストで表示可能であること。
1-11	操作の手順をポップアップウィンドウを使ってひとつひとつガイドする機能を有していること。
1-12	右手と左手及びV1とV2、V5とV6の電極付け間違いを疑われる場合、収録前に警告メッセージを表示する機能を有すること。
1-13	右胸心の被検者に対して、胸部電極の付け替えのみで検査が行える機能を有すること。
1-14	手動で記録した波形を最長10分間保存することが可能なこと。
1-15	無線LANアダプタを内蔵していること。
1-16	収録した心電図データ及び保存メディアに保存された心電図データを既存の生理検査システムへ送信できること。
1-17	既存の生理検査システムを介してオーダリングシステムとの連携が可能であること。

詳細仕様書

構成：新規設置1台

1. 心電図検査装置に関しては以下の要件を満たすことが望ましい。

1-1	安静時標準 1 2 誘導心電図が記録可能であること。
1-2	安静時標準 1 2 誘導検査の手動記録を記録・保存ができること。
1-3	内部バッテリー搭載時は120分以上の稼動が可能であること。
1-4	液晶ディスプレイはカラー表示であること。
1-5	ディスプレイは対角 8. 0 インチ以上であること。
1-6	記録紙幅は 1 4 5 mm であること。
1-7	内蔵可能なロール紙に記録可能であること。
1-8	画面上に 3, 6, 1 2 c h の表示ができること。
1-9	波形の収録終了後、収録波形及び解析結果を画面に表示・確認後、記録ができること。
1-10	5 分以上遡って 1 2 誘導心電図波形を確認することができ、任意の箇所を指定してその時点の 1 2 誘導心電図解析が可能であること。
1-11	5 分以上遡って 1 2 誘導心電図波形を確認することができ、その際、不整脈を認識しやすくするため不整脈箇所やノイズ区間、インスト区間の波形の色を変えて表示可能であること。
1-12	フリーズ機能で得られた長時間波形データ（最長 5 分以上）を既存の生理検査システム及び保存メディアに保存可能であること。
1-13	オートキャブチャ機能を使用することでノイズの少ない波形区間を自動検出し、検出した区間の記録・解析をすることができること。
1-14	1 3 0 種類以上の解析所見数を有すること。
1-15	標準 1 2 誘導心電図から右胸部誘導（V 3 R ~ V 5 R）、背部誘導（V 7 ~ V 9）の合成波形を作成し、合成 1 8 誘導心電図を提示する機能を有すること。
1-16	電極外れの際、記録を自動で停止できること。
1-17	標準 1 2 誘導心電図から ACS（急性冠動脈症候群）を示唆する代表所見を表示、レポート出力できること。
1-18	波形収録後、心電図データを S D カード、U S B メモリ及び既存の生理検査システムへ自動保存可能であること。
1-19	内部メモリには 1,000 件の検査データが保存可能であること。
1-20	無線 LAN アダプタを内蔵していること。
1-21	既存の生理検査システムを介してオーダリングシステムとの連携が可能であること。